



円原川

山県市にしかない地域資源を活かした
新たな観光を確かな産業へ



山県市にはグリーン・ツーリズムを
確かな産業へと構築していく
ポテンシャルがたくさんあります



林崎川

山県市の地域資源を活かした
新たな観光の実証実験を実施しました

テレワークが認められている首都圏在住の方々へ山県市にお越し頂きグリーン・ツーリズムを含めたワーケーションが実社会で活用できるのか実証実験を行いました。実証実験はとても好評で、その内容は多くのメディアで取り上げられ大変多くの反響を頂きました。実際に一般のお客様からの予約にも繋がり、ビジネスモデル構築に大きく前進しました。



北山地内の散策



ネイチャーガイドによる山歩き



Potential

We are in the age of seeking mental happiness, not only with materialistic, quantitative wealth, but also spiritual, qualitative values.

活動報告書
Vol. 38

挑戦せずして
未来が開けますか。

安心も自立も挑戦の先にある

恩田佳幸

Onda Yoshiyuki

岐阜県議会議員

岐阜県議会議員 恩田佳幸 事務所

〒501-2104 岐阜県山県市東深瀬846-1 TEL0581-32-9597 FAX0581-32-9598

HP 恩田佳幸 検索



岐阜県議会定例会

一般質問

グリーン・ツーリズムの推進について

令和4年第1回岐阜県議会定例会にてグリーン・ツーリズムを新たな体験型観光として確かな産業へと構築していくためのビジネスモデル構築に向けた取組みについて提案をさせていただきました。



グリーン・ツーリズムとは

農山漁村に滞在して農林漁業体験を楽しみ、地域の人々との交流を図る余暇活動のことで、都市住民に自然やそこに暮らす人々とふれあう機会を提供するだけでなく、地域にとっても、新たな出会いと交流が農山漁村を活性化させ、新たな産業を創出することが期待されています。

具体的にグリーン・ツーリズムってどんなことするの??

棚田での農業体験や、栗や柿の収穫体験、お茶摘み体験、鹿の解体教室、川を下るラフティングなどがあります。昨今では大自然に囲まれた中、テント内で薪ストーブを焚き、サウナを楽しむテントサウナなども大変人気があり、自然や農村生活に触れる様々な体験が観光の一環として取り入れられます。 ※山県市でも「神崎よってちよ」でテントサウナが体験できます。

グリーン・ツーリズムと類似した様々な観光の定義があります

サステナブル・ツーリズム

観光地の本来の姿を持続的に保つことができるように、観光地の開発やサービスのあり方を見定め旅行の設定を行うこと。地域の文化や自然環境に配慮し、本物を体験し味わうことなどを通し、観光地に住む住民と観光客とが相互に潤う観光。

アドベンチャー・ツーリズム

アクティビティ、自然、文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行。旅行者が地域独自の自然や地域のありのままの文化を、地域の方々とともに体験し、旅行者自身の自己変革・成長の実現を目的とする旅行形態。

エコ・ツーリズム

自然環境や歴史文化を体験しながら学ぶとともに、その保全にも責任を持つ観光。

観光の在り方も変化しつつあります

これまでのような観光地として整備された場所に何千人、何万人と訪れる量的なスタイルから、個々がそれぞれの地域ならではの自然や文化などの資源や本物の良さを見つけ、感じて頂く体験型の「新しい観光」へ変わりつつあります。

新しい観光の共通点は

現地にしかない自然や伝統、文化、体験、交流など本物の良さを知り体験する。そして本物の価値や良さを守り保全し、次の世代に継承していく責任のある行動です。

- これらの旅行の世界市場規模は75兆円。
- 国内旅行者の82%は「旅行において、サステナビリティが非常に重要」と回答。

山県市にしかない本物の良さを新たな観光へ。
豊かな自然。今、山県市が注目されています。

今後のグリーン・ツーリズムには、持続可能な農村地域の形成や地域の新たな産業構築に寄与する大きな可能性があります。山県市にしかない本物の良さを観光資源として活かしていき、新たな産業として構築していく。生業としてそこで働く人がいて、生活ができる環境があるからこそ、豊かな自然とその価値を守り次の世代に踏襲していくことができます。

一方で、グリーン・ツーリズムのビジネスモデル構築には課題もあります

- ・特定の地域に一定数の方々を定期的に呼び込むため地域で暮らす方々との合意形成が必要。
- ・大自然に囲まれた中でのテントサウナの常時設置には公衆浴場法の許可が必要。
- ・農業体験等を実施した後に次の会場まで参加者の送迎を行う場合には許可が必要。

その実現に向けて鍵となるのは下記の4点です

1. 講習会の継続による地域のコーディネーターや、事業主体となる人材の育成。
2. ビジネスモデルの構築に向けた伴走型支援。
3. 「ぎふの田舎へいこう!推進協議会」と連携した新たな取組みの実施。
4. 時代の変化に沿った必要な規制緩和。

質問

岐阜県として今後どのようにグリーン・ツーリズムを推進していくのかお尋ねします。

答弁 農政部長

グリーン・ツーリズムの推進にあたっては、地域の取組みをプロデュースできる人材の育成と、地域が一体となったビジネスとして実施するための体制づくりが重要です。このため、令和3年度から新たに取組みの核となる人材を育成する講習会を開催したところであり、今後も引き続き県内各地域で開催をしてまいります。

また、地域の体制づくりに向けては、「ぎふの田舎へいこう!推進協議会」と連携し、取組みに必要な専門家を「農泊アドバイザー」として派遣しているほか、体験施設と宿泊施設が連携した滞在型プラン開発の実施経費を支援していきます。今後は更にワーケーションプランの提案を行うなど、新たなビジネスモデルの構築に向けた支援をしてまいります。

なお、各種規制等の課題については、関係部局と連携して解決に向け取り組んでまいります。

一般質問での提案が全て実現しました

- グリーン・ツーリズムの支援 4,537万円の予算化を実現しました。ビジネスモデル構築支援や規制緩和、人材育成、セミオーダー型プランのモデル実施など全ての提案が予算化されグリーン・ツーリズムの本格展開がスタートします。
- 時代の変化に沿った、テントサウナの公衆浴場法に関する規制緩和を行います。
- 山県市でのグリーン・ツーリズム全国大会を開催します。

